

2021年 8月 29日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教 「神と共に悪に抗う」 詩編 139編 高橋彰

139 【指揮者によって。ダビデの詩。賛歌。】

主よ、あなたはわたしを究め
わたしを知っておられる。
2 座るのも立つのも知り
遠くからわたしの計らいを悟っておられる。
3 歩くのも伏すのも見分け
わたしの道にことごとく通じておられる。
4 わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに
主よ、あなたはすべてを知っておられる。
5 前からも後ろからもわたしを囲み
御手をわたしの上に置いていてくださる。

6 その驚くべき知識はわたしを超える
あまりにも高くて到達できない。
7 どこに行けば
あなたの靈から離れることができよう。
どこに逃れれば、御顔を避けることができよう。
8 天に登ろうとも、あなたはそこにいまし
陰府に身を横たえようとも
見よ、あなたはそこにいます。
9 曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも
10 あなたはそこにもいまし
御手をもってわたしを導き
右の御手をもってわたしをとらえてくださる。
11 わたしは言う。
「闇の中でも主はわたしを見ておられる。
夜も光がわたしを照らし出す。」
12 闇もあなたに比べれば闇とは言えない。
夜も昼も共に光を放ち
闇も、光も、変わることろがない。

13 あなたは、わたしの内臓を造り
母の胎内にわたしを組み立ててくださった。

14 わたしはあなたに感謝をささげる。

わたしは恐ろしい力によって
驚くべきものに造り上げられている。
御業がどんなに驚くべきものか
わたしの魂はよく知っている。

15 秘められたところでわたしは造られ
深い地の底で織りなされた。
あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。
16 胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。
わたしの日々はあなたの書にすべて記されている
まだその一日も造られないうちから。

17 あなたの御計らいは
わたしにとっていかに貴いことか。
神よ、いかにそれは数多いことか。

18 数えようとしても、砂の粒よりも多く
その果てを極めたと思っても
わたしはなお、あなたの中にいる。

19 どうか神よ、逆らう者を打ち滅ぼしてください。
わたしを離れよ、流血を謀る者。
20 たくらみをもって御名を唱え
あなたの町々をむなしくしてしまう者。

21 主よ、あなたを憎む者をわたしも憎み
あなたに立ち向かう者を忌むべきものとし

22 激しい憎しみをもって彼らを憎み
彼らをわたしの敵とします。

23 神よ、わたしを究め
わたしの心を知ってください。わたしを試し、悩みを知ってください。
24 御覧ください
わたしの内に迷いの道があるかどうかを。
どうか、わたしを
とこしえの道に導いてください。

聖書 新共同訳(C)日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

8月、特に平和を覚えて祈る時としてわたしたちは過ごします。そのような月に選んだ3つの詩編(137、44、139)はいずれも激しい嘆きや怒り、敵への報復をさえ神に願う祈りです。一見、平和とは真逆な態度のように思われます。139編も前半は有名ですが、『讃美歌』所載の交説文でも19-22節は省略されていました。この詩の作者は「主」である神の究め難さを告白します。神を知ろうとしても、計り知れないばかりか、神の側はわたしのことを知り尽くしておられ、この世に生み出される前からのすべてを知っておられ、同伴され、わたしを包囲し、手を置かれている。自分がそのような神の手によってかたちづくられている。主の存在とそのみ手の働きによる包囲網はわたしにとって「恐ろしい力」だとまで言います。

それほどまでに自分を知り尽くしている「主」である神に対してだからこそだからこそ、詩人は神に訴えるのです。今、あなたの包囲網ではない、悪の力がわたしの前に立ちはだかっているではないですか。それは究極には、造り、織りなし、記されるあなたの「いのちを生み出し生かす」力に対抗する者ではないですか。逆らい、流血させ(暴力を想起させます)、世を虚しくさせる悪の力だ、

それらの力は神の真実さに敵対する邪悪な者だと。詩人は神の真実さに敵対する破壊的な力を悪として、それに対して黙っていません。21節の原文は疑問文です。主よ、あなたに逆らう者たち、戦いを挑む力にわたしは闘わざによいのですか?そのような力を憎み、忌むべきものだと抵抗しないでよいのですか。不義に対して見過ごせないからこそ祈るのです。そうやって主である神に祈り訴えて頼ることによって抗うのです。そうやって悪に抗うことを通して、詩人は自分の内に神が何を作り出してくれたださったのかを知りゆくのです。

この詩は冒頭で「主はわたしのことを知り尽くしている」と言いながら、最後では「わたしの心を知ってください」と祈ります。ミャンマーでは国軍のクーデターから半年が過ぎてもなお市民に対する厳しい攻撃が続いている。それまで政治などに全く関心のなかった若者たちも立ち上がり抵抗せざるを得ない事態になっています。悪の力は人びとを引き裂き破壊します。ヤンゴンで今月10日、警察の急襲から逃れようと若者5人がビルの15メートルの高さから飛び降り2人が亡くなりました。抗う人びとの切なる祈りに連帯して祈ります。